

モンゴルへの司牧の旅

ローマ法王フランチェスコは、司牧の旅として、2023年8月31日から9月4日までモンゴルを訪問した。モンゴルでは、現地の政治的指導者やカソリック信者と交流を行った。信者と言っても、モンゴルにおけるカソリック信者は1,500人程度で、話し合いもそれほど深い部分まで立ち入ったものではなかった。記念写真も1回の撮影で全員が収まった。

法王は、キリストは神の恩寵を世界に伝えるために、弟子達を各地に派遣したが、それは親としての神との関係を広めるためであると述べた。そして、一つの神を認めさせ、色々な民族とも兄弟姉妹で同胞であることを教えた。こうした話は、モンゴルの隣の国、中国を念頭においてなされている。イエスの使者から生まれた教会は貧しいが、純粋な信仰に裏打ちされている。法王は言う。彼らは政治情勢は念頭がなく、神の恩寵を信じており、そこには神の恩寵を信ずる慈悲の言葉があり、人々を善へと導く力があるのみである。教会は貧しい人々、また神の恩寵を必要とする人たちの堅固なる声として世界に生まれた。

今、対話することが難しい国や地域がある。中国の司教や司祭はモンゴルのミサに出席しようとしても、まだ国の許可がない。しかし、中国は平和への熱意を持っている。そのよい例が、中国は「平和の使節団を送っている」という法王のコメントである。法王は、モンゴルには1200年代、中国東方からカスピ海まで治めたジンギス・カーンがいたと言及したのだった。

ローマへ戻る飛行機内でのインタビューより

(問) 法王の大ロシアに関する賛辞の言葉は、ウクライナ国民の怒りを招いたようです。そしてロシア帝国主義を賛美し、プーチン型政治を賛美しました。今でもそういうお考えなのでしょうか。

(答) 私は常に対話が必要だと言ったのです。良い文化でもイデオロギーになってしまうと、毒になります。このことは個人に対しても、教会に対しても常に言っていることです。誤った動きの中に独裁制が生まれます。独裁制では対話は不可能であり、文化と共に歩めないのです。

(問) 中国との関係はどうなっていますか。また、ズッピ特使について、何か新しい情報はありますか。

(答) ズッピは、キーウ、モスクワ、そしてアメリカ、中国を訪れる計画を練っていました。彼は対話を目指し、世界に視野を向けています。モザンビークでの経験もある。中国との関係も相互尊重だし、道はかなり開けています。我々は宗教的見解をもとにして前進しなければなりません。中国人民が、キリストの教会は中国の文化を受け入れないとか、彼らの価値を認めないとは私は思っていないし、外国に圧力をかけてくるだろうとも思ってもいません。私は中国人民を尊敬しています。

(問) 今、ベトナムを訪問する可能性がありますか。まだ他の国を訪問する旅の予定はありますか。

(答) ベトナムとの対話の窓は開かれていて、そして前進しています。私が行けなくても次の法王ヨハネス24世(!)が行くことになるでしょう。他の旅については近々フランスのマルセイユを予定しています。そして、ヨーロッパの

小さな国々もあるでしょう。できればそうした国を訪問したい。しかし、正直なところ、現在の私にとって、膝の病気のために、旅をすることは楽なことではありません。これは、時が解決してくれると思っています。

(問) 次のシノドス会議(司教会議)はパンドラの箱が開けられて、様々な意見が出て来るのでしょうか。

(答) それはそれでいいことです。蒸留水には味がないように、多様な意見を回避することは、我々の教義ではないからです。

(問) その場合、意見の多極化をどのように回避するのでしょうか。

(答) 司教会議は哲学的な討論の場ではなく、対話の場です。また、我々の会議はテレビの番組ではなく、宗教的な場であることも忘れてはなりません。

法王の特使ズッピは中国へ

元聖エジディオ共同体のメンバーであったズッピは、現法王より枢機卿に任命され、イタリア司教団の団長になっている。さらに、現在はイタリア・ボローニャ司教区の大司教でもある。ズッピはかつて聖エジディオ共同体時代、モザンビークの政府側と対抗勢力との間を取り持ち、何度も対話を繰り返し、最後には政府軍の代表者と反乱軍の代表者をローマに招請し、聖エジディオ共同体の本部の1室で、和平の調印をさせた功績がある。法王はその彼を、ウクライナ・ロシア紛争の仲介者となるよう、特使に任命したのだった。

ズッピは直ちにウクライナに飛び、大統領ゼレンスキーに面会して対話を行った。その後にロシアにも飛んだ。残念ながら、プーチン大統領には会えなかったが、その部下たちと対話を行うことができた。さらに、その後、アメリカにも渡り、平和を求める対話をした。アメリカはウクライナに多大な物資、軍事援助を行っている。ズッピ特使はそれらの武器製造、調達などについても話し合った。また、中国の力も侮れないということで、最終的に中国にも渡り、中国首脳とともに、ロシア・ウクライナ戦の停止について、対話を重ねた。その業績を、法王は讃えているのである。「何もしなかったら失敗する恐れは何もない。しかし試してみるということはいいことだ」と法王は述べている。

前イタリア大統領に黙祷

9月22日に亡くなった前イタリア大統領ジョルジョ・ナポリターノの遺体を収めたイタリア上院議院に、翌日早朝法王フランチェスコが弔問に訪れた。この出来事には、関係者一同驚きの様子を隠せなかった。ローマ法王は一般の人々の弔問が行われる前に、ナポリターノに対して弔問を行ったのである。ナポリターノは元イタリア共産党の党首であった。しかし、後年はヨーロッパ主義者となり、また大西洋主義者と言われて、彼に会う人全てを人格的にも魅了していた。法王とはその大統領の任期中に、2、3度会っているが、法王も彼の人格に魅せられた一人だった。前大統領は共産党員だったため、キリスト教的祝福は一切受けていない。そのため葬儀も、キリスト教的ではなく、上院議院の国民葬として、10月3日に執り行われた。いずれにしても、ローマ法王がイタリア大統領の死に際して弔問を行ったことは、きわめて異例のことである。